

日新産業 株式会社

- ・本社所在地 福岡市博多区
- ・業種 建設業
- ・事業内容 水門、除塵機等の設計
製作施工
- ・設立年 1976年
- ・従業員数 20人
- ・テレワーク導入部署 設計部
- ・テレワーク導入対象 3人



テレワーク導入のきっかけ

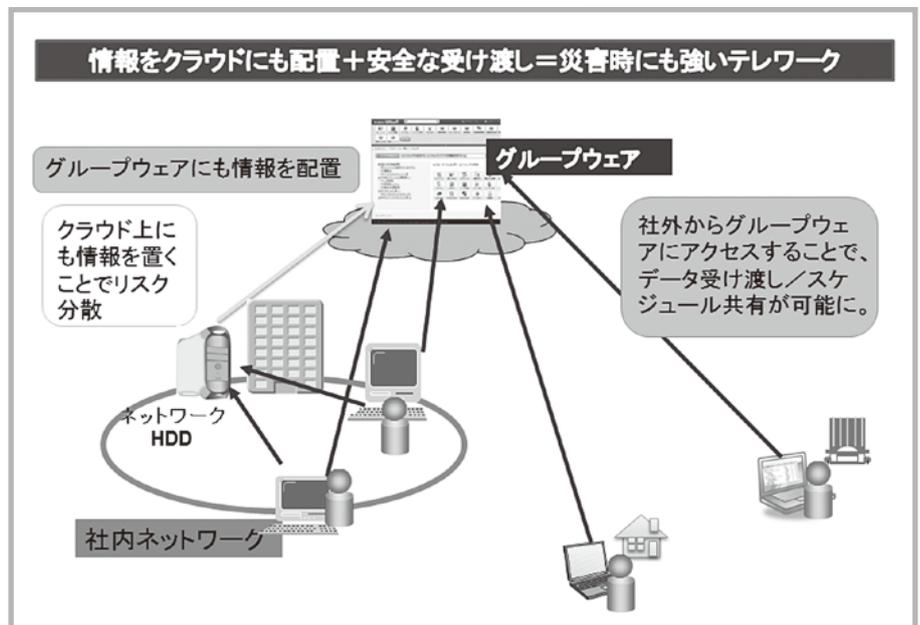
「万が一の備え」「将来への備え」としてのテレワーク導入

過去に社内サーバーの不具合からデータの喪失を経験したことがあり、業務データを安全に管理、保管し、いざという時にも業務継続が可能になる方法を模索していた。併せて、将来見込まれる社員の柔軟な働き方へのニーズに対応するため、在宅勤務の導入を検討していた。

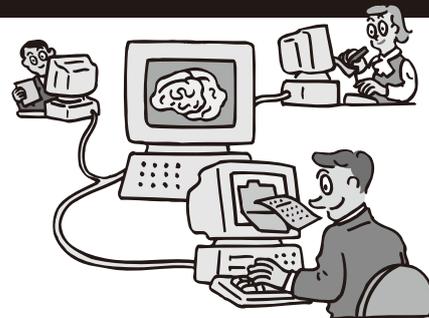
テレワークによる課題解決の方法

クラウドの活用と運用のためのルール作り

- ◎ 設計担当、営業担当など業務別グループを作り、登録
→ グループごとに必要な業務情報を共有できる体制を整えた。
- ◎ クラウド上のグループウェア「サイボウズライブ」を利用し、社内サーバーのバックアップを兼ねてクラウド上に情報を移動
→ 社外からでもグループウェアにアクセスすることができ、情報共有が可能になった。
- ◎ 外付けHDDやUSBメモリなど外部記憶媒体の利用を禁止し、セキュリティガイドラインを整備
→ データはグループウェア経由で受け渡しを行うことで、セキュリティが向上した。
- ◎ 在宅勤務制度規程を整備
→ 将来の在宅勤務希望者にも対応できるようにした。



テレワーク導入に関する感想・評価



◆企業担当者の感想◆

テレワークを多角的に利用できる可能性

社内データの保管に関しては、社内サーバーのデータバックアップ体制の強化と並行してクラウドを活用することで、非常時などに備えるBCP対策を進めることができました。

また、在宅勤務制度を整えたことで、社員のニーズに応え、ワークライフバランスの向上にも役立つと考えています。在宅勤務の仕組みを利用して、遠隔地に居住する方を在宅型で雇用するなど、さまざまなテレワークの活用もできそうです。

さらに、移動の無駄を省くため、本社と支社でWEB会議を行うことなども検討していく予定です。

◆テレワーク導入のポイント◆

クラウドを活用した情報保管のメリット

地震等の災害時には社内サーバーが破損する可能性もあり、「情報は社内に置く=安全」とは限りません。

しかし、クラウド上のグループウェアを上手に使うことで、例えば会社が停電になっても、自宅からクラウドにアクセスすることで必要な情報を入手し、事業を継続することが可能になります。

クラウド上に、誰のためにどんな情報を置いておくかなど、情報を取り扱う際の運用ルールを決めておくといよいでしょう。

テレワーク導入までの道のり

- 2012年10月 3日 啓発員訪問
- 2012年10月12日 コーディネーター訪問、ヒアリング
- 2012年11月 5日 コンサルタント訪問 導入方針提案
- 2013年 1月29日 メールにてツール提案、規則ひな形提示
- 2013年 2月25日 コンサルタント訪問、規則詳細ヒアリング
- 2013年 3月15日 メールにて規則類の最終案提出

導入ツールとコスト(概算)

無料のツールを利用

- グループウェア ・サイボウズライブ 無料